横浜市民ギャラリーあざみ野令和３年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	市川委員	加世田委員	河原委員	竹森委員	山村委員
1　文化事業目標　使命1	【評価できる点】 「あざみ野こどもぎゃらりぃ」や「親子のフリーゾーン」等のこども対象事業では、多くの子供たちが壁や大きな紙にお絵描き、折り紙やねんど遊びなど、それぞれのコーナーで飛び回っている姿があり、地域に貢献している点を評価します。 また、カメラ・写真ワークショップとその展示「写真と俳句」展では限られた学校での実施ではありましたが、写真の表現と文章力を高めるということで情操力を高めることも評価できると同時に、展示ではその子供達らしさでの視点には興味を惹かれるものがありました。デジタルカメラを使い、プリントをミュージアムスタッフが行ったというのも素晴らしいことで評価いたします。 【更なる取組を求める点】 フリーゾーンのえのぐ遊びでは自由に遊ぶことが前提ですが、絵具や水を使い、色の 3 原色のような考えを少し入れることで、子供たちに科学する心みたいなことが芽生えるきっかけになるワークショップのテーマがあっても面白いと考えました。	【評価できる点】 幅広い属性の方、施設へのアプローチが着実に成果をもたらしていると思います。青葉区にある施設やケアプラザ、横浜美術館など、連携先の特性を生かした事業展開に結びついています。特に若年性認知症に特化した横浜唯一の施設との連携は、福祉の枠ではない、誰もが平たい場で活躍する可能性を感じました。 子ども対象事業では、感染防止策を講じ工夫をして着実に実施しました。学校との調整や資源協力の調整など、いろいろご苦労あったと想像しますが、予定どおり 4 校で実施し、延べ人数を大幅に増やしています。 施設内での展示の工夫に加え、アウトリーチ展示も実施し、アートに親しむ機会を創出しています。市民ギャラリーあざみ野の存在を知らせる機会にもなったと思われます。 【更なる取組を求める点】 外国にルーツを持つ方、障がいのある方、高齢の方とどうしても括りはありますが、多世代・多様な方が集まり、アートを介して共に楽しむような場ができたらよいなと思いました。 広報についても様々な手法をお持ちなので、引続き積極的に発信し、様々な層に届けていくことを期待します。	【評価できる点】 若年性認知症患者、外国人在住ファミリー、障がい者、子どもといった対象への配慮は、「使命 1」の社会包摂の視点において重要です。事業においても対話型鑑賞会といったコミュニケーションを伴う双方向の教育プログラムを採用し、利用者のニーズをくみ取り、抱えている課題にも寄り添う姿勢が伝わってきます。 コロナ禍にてさまざまな対応を求められる中、豊富な事業に取り組んだと思います。 認知症を見据えたミュージアムの活動は国内外で少しずつ展開されています。あざみ野の取り組みを国内外に共有することで新たな展望が拓けると考えます。 【更なる取組を求める点】 美術史講座の参加者数はさらなる増加を期待できると考えます。講座テーマの意義をユーザーのニーズを踏まえて吟味してみてはいかがでしょうか。 ただし、参加者数のみで講座の有効性は必ずしも確定しないと考えます。ギャラリーあざみ野として提供するに値するかも検討し、継続的な施設利用者層を地道に拡張してゆくことが大切だと思われます。 ロビーコンサートについて、美術館などではギャラリーコンサートとして展覧会と連動（関連）する音楽の提供などが行われています。そのことによって、展覧会の理解が深まったり来観者の満足度が高まったりするようです。このような展開も検討が期待されます。 ほかのミュージアムにおける YouTube を参照しながら、よりよい情報提供を期待しています。 フェローアートギャラリーのさらなる発展を期待します。	【評価できる点】 ・第 4 期で新たに取組を計画していた「高齢者が文化芸術活動に参加し担い手となる取組」及び「在住外国人の方々が来館しやすい仕組みの充実」の 2 つについて、取り組みを始めることができた点。 ・「ロビーコンサート」や「親子のフリーゾーン」「親子で造形ピクニック」など、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながらも目標を上回る定量的実績を達成された点。 ・「あざみ野こどもぎゃらりぃ」等において、企業から材料の提供を受けるなど、外部との連携に取り組まれた点。 ・YouTube やインスタグラムを活用し、施設や活動内容について積極的に情報発信された点。 【更なる取組を求める点】 ・「高齢者が文化芸術活動に参加し担い手となる取組」につきましては、協力団体としっかりと連携し、今後の具体的な実績を期待します。 ・「在住外国人の方々が来館しやすい仕組みの充実」につきましては、多言語化に替えてやさしい日本語導入を検討し、一部導入済とのことですが、事業計画に示された英語ウェブサイトの充実などの情報発信多言語化、北部地域の国際交流ラウンジとの連携など、今後のより積極的な取り組みを期待します。	【評価できる点】 障害のある方「フェローアートギャラリー展」、子ども「こどもぎゃらりぃ展」、一般の方「ショーケースギャラリー」、そしてファミリー向けに様々な展覧会や、ワークショップ、プログラムを用意して、コロナ禍で来場者が見通せない中、それぞれ定量目標をほぼ上回る数値を残している点は高く評価できる。「子どものためのプログラム」やファミリー向けなど、倍率が高く、人気のあるワークショップで全て人の要望に応えられないジレンマはあると思うが、他の事業とのバランスで仕方がないと思う。また、認知症の方、外国にルーツを持つ人たちに向けたヒアリング・ミーティングを実施したり、「特別フリーゾーン」を試行的に実施したりしている点も評価できる。 【更なる取組を求める点】 認知症の方、外国にルーツを持つ人たちに向けたプログラムを早期に開発し、継続的に実施して、試行錯誤を重ねつつ、改良を重ねていっていただきたい。必要性としては、こういった人々への支援の方が切迫していると思う。

横浜市民ギャラリーあざみ野令和３年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	市川委員	加世田委員	河原委員	竹森委員	山村委員
１　文化事業目標　使命２	【評価できる点】 　かつては所蔵カメラと写真の展示が単にモノとしてデザイナーが配置しただけという時期もありましたが、 　「見る装置としてのカメラの歴史的な変遷」では、歴史的なカメラ技術の進歩を流れをもたせて展示されたのはカメラの発展の進化を知ることができ、大きな進歩として評価できる部分です。 中井菜央さんの「雪の刻」作品は現代アート的ではなく、来館された一般の方々にも写真として理解しやすい撮影対象であり、展示法でした。	【評価できる点】 　横浜市所蔵カメラ・写真コレクションを軸に、企画展や関連事業を効果的に実施しています。目標の倍以上の来館者があったこと、満足度も高かったことは、見ごたえのある内容の濃いものであったがゆえと思います。 　子ども対象事業として、学校との連携が効果的になされました。カメラ出張ワークショップやその展示「写真と俳句」展は、子どもたち一人一人が自分自身を表現する素晴らしさを感じる機会となり、また見る側にも子どもたちの感性を受け取る場となりました。 　市民向けプログラムでは、感染対策に工夫をしながら予定を大幅に上回る回数で開催し、550 名と多くの方が参加できました。	【評価できる点】 　写真関連のコレクションおよび事業と現代アートの展示や情報提供は、館の重要な活動です。「教師のためのプログラム」を設置し、教育者の育成をすることは、国内外のミュージアムでも取り組まれており意義があると思います。館のコレクションや活動の伝え手を育成することによって、人から人へとギャラリーあざみ野の存在の認知度が高まることが期待されます。 アウトリーチも行われています。	【評価できる点】 ・特に「あざみ野フォト・アニュアル」において、目標を大きく上回る来場者数及び平均満足度を得ることができ、所蔵するカメラ・写真コレクションを活用した当館の独自性を前面に出した充実した展示が行えた点。 ・インターネットによる情報発信が主流となる中で、アーティストトーク、対談など、Face to Face の情報発信に取り組まれた点。 ・カメラ・写真コレクションのデータベース構築及び Web 公開に継続的に取り組まれ、また外部美術館に当館所蔵品の貸出を行い、コレクションの有効活用が行われた点。	【評価できる点】 　「あざみのフォトアニュアル 2022　中井菜央展」は目標の２倍以上の来場者で、コロナ禍のことを考えると大健闘といえる。展示室２では、同時開催で「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション」を紹介しており、文化事業目標の使命２を立派に果たしているといえる。一方「あざみ野コンテンポラリー　對木裕理」では目標に少し届かなかったが、作家による関連事業を重ねるなど努力をしている。満足度も高く、コロナ禍では頑張ったといえるだろう。「市民のためのプログラム」の実施回数と参加者数も目標より多く、市民の需要に応えている。
	【更なる取組を求める点】 　コレクションの HP での紹介、データベース化はさらに内容を深めて進めていけば、コレクションの資料的価値がより高まると思います。	【更なる取組を求める点】 　ギャラリーあざみ野の大きな特徴である「カメラ・写真所蔵」があること、まだまだ周知が必要と思います。所蔵施設であるという認識が、更に広まることを期待します。	【更なる取組を求める点】 　「教師のためのプログラム」の利用者の満足度やニーズなどをさらに精査することを提案します。 　写真と現代アートの魅力の伝達はさまざまな工夫が必要です（特に現代アート）。オーディエンスの育成を意識しながら、分かりやすく興味を持ってもらえるような情報提供が期待されます。 　アーティストトークや対談などがさらに多くの人々に有意義に受容してもらえることが望まれます。 　都写真美などの専門機関との連携や情報交換も継続しながらさらに充実した活動を期待します。 　Instagram など SNS にも注力しているとのこと。観客の拡大に有効と考えます。ヴィジュアル的なインパクトなどについてのコメントも参考になると思います。	【更なる取組を求める点】 ・カメラ・写真コレクションは横浜市のアイデンティティを示す貴重な文化的財産と考えますので、常設展での展示やインターネットを活用してより積極的に情報発信するなど、市外の方を含めたより多くの方々に訴求する活動を期待します。	【更なる取組を求める点】 　やはり、写真を軸とした「現代アートの発信地」としての発信力が地域に十分行き渡っているとはまだ言えないので、引き続き努力を続けていただきたい。それに加えて、同じ「写真」と呼ばれていても、1990 年代までの「写真（ネガ・プリント）」と、それ以降の「デジタル写真」とではメディアとしての性格がまるで違うので、そのことを市民に分かりやすく説明したり、意味づけたりして、昔のフィルムプリントの美しさと貴重さを見せる展覧会やプログラムに取り組んで、コレクションの価値をもっとアピールしていただきたい。 　スマホへの過度な依存の危険性もレクチャーの中で指摘するなど、市民のメディアリテラシーを高める取組にも期待している。

横浜市民ギャラリーあざみ野令和３年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	市川委員	加世田委員	河原委員	竹森委員	山村委員
Ⅰ　文化事業目標　使命３	**【評価できる点】** 地域社会（あざみ野地区）には子供から高齢者までの幅広い方々が生活しているわけですが、今年度の展示はその多くの方々が見れるような企画内容が多かったことは大切であり、評価できる部分です。 **【更なる取組を求める点】** 市民ギャラリーあざみ野は、横浜市全体から見ると現代アートの部分を重点的に担っているという印象が強かったですが、市全体の位置から見ると住宅地のあざみ野にそのような部分を求めるのは難しく、現状である収蔵カメラや古典的写真をさらに活かし、発展させた一般向けの展示に重きをおけば、市内外からの観客の動員増を望めるのではないでしょうか。	**【評価できる点】** 「地域コミュニティへの課題に向き合う」ための分野を超えた協働が具体的に進み、成果を出されたと思います。青葉区には地域課題に取組む団体や施設が多くありますが、協働団体数は目標を超える７団体となり、青葉区がもつ資源とつながったことが伺えます。中でも認知症支援団体「やさしいあざみ野実行員会」との連携しアイディアを具現化していけたことは、地域資源と結びついた新しい事業展開の道をひらいたことと思います。 **【更なる取組を求める点】** 様々な団体・施設と連携することは、大変労力のいることと思います。市民ギャラリーあざみ野だからこその視点やできることを提案し、アートの力、市民ギャラリーあざみ野の存在感を、より示していかれることに期待します。	**【評価できる点】** 認知症支援団体との活動が具体的に進展している様子がうかがわれます。この領域は大変に重要です。 在住外国人支援団体との活動も意義深いと考えます。 協働事業者の開拓も見受けられます。 **【更なる取組を求める点】** 地域コミュニティの課題の精査と事業のさらなる有効なマッチングを期待します。 アーティストトークや対談で明らかになった知見の利用やアンケート調査内容や方法の再確認も有効です。アンケートの実施によりわかったことや課題を今後の事業に反映されることと思います。 地域コミュニティが抱える課題にも目を向けてゆくことが期待されます。 認知症支援団体との活動の経験知の蓄積も進んでいるようです。この知見をさらに有効活用することを期待します。	**【評価できる点】** ・地域団体との連携が進み、高齢者や認知症の方向けのプログラムの実施へ向け、取り組みがスタートしている点。 ・センター北との連携事業「あざみ野サロン」を「アート×ジェンダー」に事業内容を特化させたことは、多様性が要請される時勢において意義のあることと評価します。 **【更なる取組を求める点】** ・コロナ禍においてアートサポーターとの連携が見送られました。ワークショップでの協働が難しい場合でも、何らかの形で事業運営に関与していただくことは、地域への文化芸術の浸透という観点で意義深いものと考えます。 ・地域コミュニティが抱える課題についてより多方面に認識し、今後の事業計画立案に反映していただくことを期待します。	**【評価できる点】** 地域コミュニティの中で、協働できる地域の団体を７つに増やしたり、あざみ野フェローマルシェを年５回開催して、延べ参加団体３３団体、来場者数 4,362 名を数えたり、また男女共同参画センター横浜北との「あざみ野サロン」を開設したりして、様々な外部団体との協働を積極的に進めている点は高く評価できる。 **【更なる取組を求める点】** あざみ野「フェローマルシェ」（障害者）、「あざみ野サロン」（男女参画）など、具体化して定例になっている事業については、しっかりと継続して、広報、記録を取り、アンケートなどで参加者の声を聞き取り、PDCA をしっかりと機能させてほしい。それに加えて、NPO など地域団体と協議・連携して、認知症の方、外国にルーツを持つ人たちなど、様々な社会課題の解決に向けたプログラムを実現してもらいたい。

横浜市民ギャラリーあざみ野令和３年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	市川委員	加世田委員	河原委員	竹森委員	山村委員
Ⅰ 文化事業目標 使命４	【評価できる点】 地域コミュニティーの核となるべく活動としての音楽会、地元市民の美術展、子供向けワークショップ、お弁当屋さんなどの実施は評価できます。ただこれらは使命４として独立したものではなく、使命１・２・３と密接に絡み合って成立するものであり、その共通点が市民ギャラリーあざみ野の位置づけであり、価値だと考えます。 【更なる取組を求める点】	【評価できる点】 「よこはま縁むすび講中実行委員会」が立ち上がり、北部４区の文化施設が具体的に連携し事業展開が期待できる場が生まれたことを評価します。あざみ野カレッジやフィリアホールとの事業連携など、今後の展開が楽しみになるネットワークと思います。 また、神奈川県立養護学校の職業体験受入や小学校の協議会の参加など、事業として立っていないことではあっても、学校側が当施設に注目された結果なされたことと思います。 【更なる取組を求める点】 よこはま縁むすび講中は、助成金がなくても継続して連携していかれるよう、また、養護学校等とは引続き関係維持されることを期待します。	【評価できる点】 文化庁助成金を利用した活動にも着手している点、養護学校の職業体験受け入れ、地産地消促進、地元企業化支援への取組を評価します。 【更なる取組を求める点】 地域資源のさらなる発掘、連携、情報提供を期待します。 あざみ野カレッジ「地域資源部門」とギャラリーあざみ野のコレクションや展示活動との関連を意識して、写真コレクションの強みをいかしてさらに今後豊かな展望が拓けると思います。 地元大学連携の活路を見いだすことも今後の課題と考えます。 リサイクルアートとしての地域との連携も継続が期待されます。また、北部4区のミュージアム、文化施設の連携も継続が期待されます。	【評価できる点】 ・「よこはま縁むすび講中実行委員会」によって、地域の文化施設が連携し、文化的コモンズの形成に取り組まれた点。 ・「あざみ野カレッジ」や「アートフォーラムフェスティバル」など、地域とつながる事業を実施することによって、地域における文化的拠点としての役割を果たし、また文化芸術への導線となったこと。 【更なる取組を求める点】 ・コロナ禍によって、地元大学との連携講座及びワークショップの共同開催が実施されなかったことは残念です。WITH コロナを前提に、今後の連携の在り方をご検討下さい。	【評価できる点】 「あざみ野カレッジ」で、地域資源をテーマに地域の方を講師にして、講座を４回開催し、「開館記念日アートフォーラム」「あざみ野マルシェ」を賑やかに開催するなど、地域資源の人材を有効に活用している。青葉区のフィリアホールと連携したり、地元企業と連携したりするなど、意欲的に取り組んでいる。 【更なる取組を求める点】 ・広報、ネーミング、デザインはもっと強化して、見やすく魅力的な HP、チラシ等のデザインを洗練してほしい。地域在住のデザイナー（数人）に継続的に HP デザイン、チラシ等の手掛けてもらう方法を使ってほしい。あざみ野カレッジの受講者が目標の半分（67 名）で少なかったのが気になった。 ・アートフォーラムあざみ野は、横浜市民ギャラリーあざみ野と男女共同参画センター横浜北が同居した複合文化施設だということが、知らない人には本当に分かりにくいので、ネーミングとロゴと連携の改善（修正）には更に取り組んでほしい。 ・写真、映像、カメラに興味のある若い層の担い手（コミュニケーター）の発掘と育成にもっと取り組んでいただきたい。 ・地元大学や学校との連携については積極に取り組んでほしい。教授、准教授、講師、学生など、連携できる人材は多いと思う。

横浜市民ギャラリーあざみ野令和３年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	市川委員	加世田委員	河原委員	竹森委員	山村委員
Ⅰ 文化事業目標 使命５	【評価できる点】 20 の目標に対する実施できたのが 18 と高いのは評価できます。 【更なる取組を求める点】 未実施部分であるギャラリーお試し事業などはぜひ達成をしていただきたいと思います。	【評価できる点】 文化施設の専門性を発揮し、展示のアドバイスや相談に応じました。利用者にあわせた丁寧なサポートがなされていたことが、満足度の高さにつながっていたと思われます。 【更なる取組を求める点】 専門性の高いスタッフがいること、学芸員の仕事など、一般にはなかなか知られていないことと考えます。当施設には高度な人材資源があることの発信やスタッフによる講座等をご検討いただきたい。	【評価できる点】 感染対策の対応、利用団体に対しての広報協力について評価します。 【更なる取組を求める点】 展示構成アドバイス、コンシェルジュとしての対応など、ホスピタリティとの関連性を有するため、文化施設の専門性を反映したマネジメントを行うことを期待します。 また、高齢化社会に向けて、ユーザーの利用のしやすさの検討や、有効なホスピタリティの方法論の蓄積をすることも大切です。 アンケートの回収率は条件によってさまざまなようです。機会を見つけて聞き取りなどによるニーズの収集も有効かもしれません。 「ホスピタリティのあるコミュニケーション」のような手間のかかる事業も無理のない範囲で継続することが期待されます。	【評価できる点】 ・コロナウイルス感染症対策により制約はあったものの、利用者ニーズをしっかりと汲み取り、高い品質のサービスを提供された点。 【更なる取組を求める点】 ・アトリエ利用率の向上に引き続き取り組んでいただきたいと思います。	【評価できる点】 コロナ禍による緊急事態宣言、蔓延防止期間などで、通常とは違った状況における多目的施設の対応を迫られる中、各ガイドラインをもとに、大きな事故もなく適切に安全・安心な運営を行ってきたことは高く評価できる。 【更なる取組を求める点】 高齢化の進展による施設利用者の減少に適切に対応して、若者やファミリー層に向けた利用促進が進むように、綜合的な調整を期待したい。社会と時代の変化に対応した柔軟な運営が今後さらに求められる。また、それに対応できる専門人材の配置と育成にも取り組んでいただきたい。
Ⅰ 文化事業目標 使命６	【評価できる点】 特にありませんが、他美術館などへの収蔵品の貸し出しは、他美術館や博物館との交流にもなり、場合によっては収入にもなりますので前向きに推し進めたほうがよろしいかと思います。 【更なる取組を求める点】 限られた収蔵品の範囲ではありますが、さらに貸し出し、画像提供などが活発になれば、1つのミュージアムとして地位の向上にもなると考えられます。	【評価できる点】 センター横浜北、管理委託会社と定期的にミーティングを行い、施設管理の共同に努めています。 帰宅困難者一時滞在施設対応訓練を実施するとともに、マニュアルをやさしい日本語で改訂しています。誰にでも分かりやすくという視点を評価します。 【更なる取組を求める点】 センター横浜北とも共有しつつ、引続き良好な維持管理されることを期待します。	【評価できる点】 キャッシュレス対応、帰宅困難者一時滞在施設対応訓練のマニュアル改訂、警備担当と週１回定例ミーティングの実施、自衛消防隊の組織化などに取り組んでいる点を評価します。 AED の研修もスタッフ全員が受講しているとのこと、評価に値します。 【更なる取組を求める点】 設備の不具合や修理部品の欠品が想定されるとのこと。地元連携や支援者との関係性が活路になることが期待されます。 地元消防団との連携についても更なる取組を期待します。 帰宅困難者一時滞在施設対応訓練のマニュアルの改定などもしていらっしゃいます。時代に即した対応が必要です。	【評価できる点】 ・必要かつ十分な維持管理が行われた点。 ・講座、ワークショップ参加費の支払にキャッシュレスが導入された点。 【更なる取組を求める点】 ・今後予想される経年による設備の修繕等につきましては、横浜市と密接に情報を共有し、事業に支障なきよう対応していただきたいと思います。	【評価できる点】 地下駐車場精算機の適切な更新、コロナ感染症対策としての IC によるキャッシュレス化、文化庁補助金を活用した自動検温器の導入、収蔵庫の温湿度管理と害虫調査、そして災害時対応、消防訓練など、適切な維持管理につとめている。 【更なる取組を求める点】 設備や備品の耐久年数や不具合について、早め早めに把握し、計画的に更新や改修を進めてもらい、事故のないようにしていただきたい。

横浜市民ギャラリーあざみ野令和３年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	市川委員	加世田委員	河原委員	竹森委員	山村委員
Ⅱ 施設運営目標	【評価できる点】 特記事項はありません。 【更なる取組を求める点】	【評価できる点】 適切な運営をされていると思います。 【更なる取組を求める点】 学芸員が派遣依頼を受け、福祉関係団体へレクチャーをされたとのこと。人材の専門性を生かした更なる取り組みに期待します。	【評価できる点】 臨機応変な人材配置、柔軟なシフト編成をされていることを評価します。 【更なる取組を求める点】 博物館実習生１名受け入れとのこと。受け入れには手間もかかることでしょうが、さらに受け入れ枠の拡大が期待されます。インターン生はギャラリーあざみ野の理解者および伝達者であり、コンスタントなユーザーになる可能性を秘めていると考えます。受け入れ側の問題発見につながることもあり得ると思います。 職員の方々の残業時間について、今後も配慮をお願いします。また、職員のスキルアップについてもシステム化されています。時代に即したスキルを常に意識する必要があると考えます。	【評価できる点】 ・少ない人員で安定した施設運営が行われた点。 ・働き方改革がクローズアップされている中、在宅勤務の導入など、柔軟な勤務環境の構築に努めた点。 【更なる取組を求める点】 ・ＳＤＧｓにつきまして、取り組み方針を策定し、外部に対してより積極的に情報発信することが望ましいと考えます。	【評価できる点】 少ない人数で多くの事業を効率的にこなし、なおかつ残業を抑制し、在宅勤務にも積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。 【更なる取組を求める点】 学芸員の芸術、美術、写真、カメラに関する、知識、スキルを高めるための研修、視察、出張を積極的に行ってほしい。
Ⅲ 維持管理目標	【評価できる点】 特記事項はありません。 【更なる取組を求める点】	【評価できる点】 適切に実施されていると思われます。 【更なる取組を求める点】	【評価できる点】 緊急時の安全確認についてのマニュアル理解と定期的確認行動の実施について評価します。 【更なる取組を求める点】 さまざまな周辺施設との連携を期待します。 ＡＥＤの対応も配慮があると思われます。	【評価できる点】 ・事故なく維持管理が行われた点。 【更なる取組を求める点】	【評価できる点】 感染症対策をはじめ、安全・安心な施設の維持管理につとめている。 【更なる取組を求める点】 豪雨災害、地震、テロなど、不慮の事故、事態はいつ起こるか分からないので、月次ミーティングは重視してほしい。出勤ローテーションとシフトでメンバーは一定しないと思うので、出来れば、毎日でも注意喚起をしてほしい。

横浜市民ギャラリーあざみ野令和３年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	市川委員	加世田委員	河原委員	竹森委員	山村委員
Ⅳ 収支	【評価できる点】 特記事項はありません。 【更なる取組を求める点】	【評価できる点】 指定管理料に依存しない収入構造となるよう、助成金の獲得などに努め、事業展開に反映しています。 【更なる取組を求める点】	【評価できる点】 助成金の獲得や、利用料金の維持と安定的な確保を評価します。 【更なる取組を求める点】 ギャラリーあざみ野の理解者を増やし、支援につなげることを期待します。	【評価できる点】 ・助成金、協賛金、広告料等、外部収入の獲得実績が目標を大きく上回った点。 ・自主事業の一部について、単独での収支黒字化を達成された点。 【更なる取組を求める点】 ・公益法人としての税務上のメリットをＰＲし、協賛金や寄付金の獲得に従来以上に取り組んでいただきたいと思います。 ・今後も自主事業の黒字化に努力していただくと共に、企画展でのパンフレットの利用者負担等もご検討されたらいかがでしょうか。	【評価できる点】 助成金、寄付金、施設誌の広告料で年間 400 万近くの外部資金を得ていることは高く評価できる。 【更なる取組を求める点】 自主事業の収支、外部資金の獲得については、今後も他の施設の様々な事例を参考にしながら、積極的に取り組んでもらいたい。

	市川委員	加世田委員	河原委員	竹森委員	山村委員
Ⅴ ＰＤＣＡサイクルの確実な運用	【評価できる点】 特記事項はありません。 【更なる取組を求める点】	【評価できる点】 適切に実施されていると思われます。 【更なる取組を求める点】	【評価できる点】 適切に運営されているように思われます。 【更なる取組を求める点】 さまざまな項目に対する PDCA は、現場に有効に反映すると考えます。 近年Ｐ（Ｐｌａｎ）にエネルギーを酷使しがちな＜PDCA＞から OODA＜ウーダ：Observe(観察)・Orient(状況判断/方針決定)・Decide(意思決定)・Action(行動/改善)＞への転換が指摘されています。こちらも検討してみてはいかがでしょうか。	【評価できる点】 ・適切かつ安定的に運用されている点。 【更なる取組を求める点】	【評価できる点】 事業計画の確認、業務日誌、報告書作成、モニタリングの実施、自己評価については確実に実行している。 【更なる取組を求める点】 高齢者の施設離れなど社会情勢の変化、モニタリング、アンケート、地域協力団体の声などについては、綜合的に分析し、職員の声などをミーティングで把握しながら、可能な改善策(アクション)を少しずつでも進めてもらいたい。
その他	－	－	公共施設は、PR や認知度の拡大に苦慮するところが多く見受けられます。市民ギャラリーあざみ野のアピールポイントや強みをしっかりととらえ、多くの人々の関心を引くような広報活動も大切だと思います。 来場者数目標の見直しは随時必要と考えます（増減ともに）。	－	「指定管理業務の基準」及び「事業計画書」を読むと、定性的にも定量的にも、10 人程度の職員では率直に言って加重に過ぎる業務ではないかと感じます。もう少し事業数を絞って、個々の目標を別々の事業で実施するのではなく、ある程度合体してもいいように思いました。そのうえで、使命の1～8の諸目標を関連付けて、文化事業目標を総合的に達成できる「重点事業」を3～4つ絞り込んで(まとめて？)、「あざみ野の看板事業」にしていくのがいいのではないかと思います。

横浜市民ギャラリーあざみ野令和３年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	市川委員	加世田委員	河原委員	竹森委員	山村委員
総括	「横浜市民ギャラリーあざみ野」は、現代アートと一般地域社会との融合という点では、住宅地を主体としたあざみ野という地域特性と子供がいる町でありながら、ギャラリーが創設されて 17 年を迎え、若い町ではあっても近い将来は高齢化時代をも迎えるという、一見すると矛盾した課題を持っていますが、前年度に比べると、展示全般の流れを見渡すと、かなり地域住民に寄り添った展示内容が増えたという印象をもちました。	コロナ禍が続く中、多くの事業で目標を上回る実績をだされており、高く評価します。特に、地域の活動団体や多様な施設と連携を進め、社会課題に対応した事業展開をされたことは、市民ギャラリーあざみ野の存在感をさらに高めたものと思います。連携は労力のかかる事業ですが、引続き積極的にアプローチをし、連携を深めることを期待します。 また、市民ギャラリーあざみ野の大きな特徴である「カメラ・写真所蔵」については、まだまだ一般に知られていないと思います。今年度開設した Instagram などの手段を効果的に使い、横浜唯一の所蔵館であること、貴重な所蔵物があることを広めていただきたいと思います。	さまざまな運営があり、熱心な活動をしていることがうかがわれます。 多くの事業がありますので、仕事量も少なくないと思われます。作業の効率化を常に意識する必要があると考えます。 ビフォー・ウィズ・アフター・コロナの流れで、時代は大きく変容しています。ミュージアムは時代とともに成長する生き物ですから、新たな時代を察知してパラダイム・シフトしていってほしいと願っています。（評価シート 6 ページの内容についても OODA の考え方を参照してください。） 現代アートや写真をメインテーマにしている館ですので、特に現代アートについての伝え方には困難がつきものです。ぜひ、さまざまな試みにより、より多くの人々と現代アート、写真の素晴らしさを有効に共有してください。 ボランティアの可能性について。ボランティアをミュージアムのマンパワー不足の補完としてとらえる時代はすでに過去のものとなっています。ボランティアを生涯学習の一環としてとらえ、WinWin の関係が構築できるようなプログラム形成が期待されます。	全体的に目標を上回る実績を達成されており、Ｒ３年度の指定管理業務は概ね適切に実施されているものと思われます。 コロナ感染症拡大防止のため、見送りもしくは保留となっている事業計画がいくつかありますが、これらの事業計画につきましてもＷＩＴＨコロナを前提に、当初の計画を修正するような形で実行できないか、今後ご検討いただければと思います。	コロナ禍で安定した来場者が見通せない中、企画展覧会やワークショップをはじめとして、それぞれの事業で定量目標をほぼ上回る数値を残している点は高く評価できる。とくに「あざみのフォトアニュアル 2022 」は目標の２倍以上の来場者で、大健闘といえる。「ショーケース」「あざみ野カレッジ」「子どものためのプログラム」「フェローマルシェ」（障害者）、「あざみ野サロン」（男女参画）など、様々な社会題に対応したプログラムを着実に実施している点も高く評価したい。また、「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション」の保存と活用にもしっかり取り組んでいる。 少ない人数で、コロナ禍に対応した、安全・安心の施設運営に着実に取り組み、多くの事業を効率的にこなし、なおかつ残業を抑制し、在宅勤務にも積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。 今後は、総じて、顧客に繋がる効果的なマネジメントに更に力を入れていく必要があると思います。看板事業を絞りながら、横浜市民ギャラリーあざみ野を効果的に広報して、イメージの統一と普及、そして若い層の担い手の育成に向けて、さらに前向きに取り組んでいただきたい。

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅰ文化事業目標		指定管理者提案（要旨）	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
使命1 横浜市北部地域の子どもや高齢者、障害者、外国人、様々な経済事情にある方、性別にかかわりなく幅広い属性の方へ、社会的包摂の視点を踏まえ、美術を中心とした文化に触れる機会を提供し、豊かな感性を育むとともに、多様な価値観を受け入れる文化の醸成に貢献する。	1	高齢者が文化芸術活動に参加し担い手となる取り組み	■アンケート及びヒヤリング等による高齢者（65歳以 上）へのニーズ調査の実施	実施	ヒアリング実施	-	関連団体への事業ニーズや、イベント参加のヒアリングを実施 ・若年性認知症介護サービス会社GrASPや荏田地域ケアプラザの協力により「美術鑑賞会」に向けてヒアリング・ミーティングを実施	【成果】 普段着を着るように、文化芸術がもっと身近なものとなることで、多様な価値観との出会いが生まれ、尊重し合う社会の醸成につながることを目標に、コロナウイルス感染症による制約は受けつつも、子どもやファミリー向けの事業をはじめ、さまざまな層に向けた事業を継続して開催しました。 子ども事業については、感染症対策を徹底することで、安心して活動できる場を準備し、予約制による参加人数の制限・道具を共有しない仕組みなどきめ細やかな配慮を行い、参加者の満足度向上につながりました。フリーゾーン、子どものためのプログラム、ファミリーワークショップ、横浜市芸術文化教育プラットフォームとも、目標回数を実施することができました。 課題であった高齢者、外国人の方々へのアプローチについては、地域で活動する団体の協力、繋がりを通じて次年度以降に展開するための土台づくりができました。具体的には、施設やケアプラザと連携し、認知症の方のためのより豊かな生活の場としてギャラリーを活かしていただくという視点で、対話型鑑賞会の実施を提案しています。 広報の新しい取組として、施設を知ってもらうために、市民ギャラリーあざみ野単独の施設パンフレットを新たに作成しました。また建物外のバナーを新たなデザインに更新したほか、「アートフォーラム通りの施設・お店紹介」の動画を作成してYouTubeで公開しました。感度の高い層にビジュアルに訴える広報ツールとしてインスタグラムをスタートさせました。 障がいのある方を対象にした事業については、緊急事態宣言やまん延防止等特別措置機関にかかり、実施ができない例（辞退）がありましたが、日程の変更など柔軟に対応しました。 フェローアートギャラリーについては、青葉区役所やtvkローズガーデン、青葉区民文化センターフィリアホールなどへ調査を行い、フィリアホール通路での出張展示（エクステンション）が実現しました。 日曜昼間の無料コンサートであるロビーコンサートについては、センター北の折半負担がなくなったための単独開催が続き予算的には厳しいものの、クラシックやJAZZ、地域の太鼓演奏団体などを招き、10回開催しました。	【評価できる点】 ・あざみ野カレッジで「文化芸術部門」では、多様なテーマを取り入れ魅力ある学びの場を提供していることを評価します。世の中の流れに沿ったテーマを取り上げるなど工夫を施し、分野や内容がきめ細やかに検討企画されています。本年度は横浜美術館との連携企画を行うなど新たな取組を行いました。その結果として参加者の満足度が高いものとなっています。 ・子ども対象事業については、感染症対策を徹底したうえで、手法に工夫を凝らし積極的に事業を展開しました。応募者数、満足度共に非常に高くコロナ禍においても子どもたちにアートを通して、創造の楽しみを体感する場を提供しました。また、外国にルーツを持つ方を対象とした親子のフリーゾーンを試行するなど新たな取組に着手しました。 ・「フェローアートギャラリー」や「あざみ野フェローマルシェ」の実施により、障がい者の芸術活動の場をつくり、支援したことを評価します。フェローアートギャラリーについては青葉区民文化センターへの出張展示という新たな取組を行いました。 ・新型コロナウィルス感染症対策に伴う施設内の消毒等の対策や、定員の変更、貸館利用者様への対応など迅速かつ柔軟に対応いただきました。そのため大きなトラブルが発生することなく施設の運営を進めることができました。 ・課題としていた「幅広い属性の方」にアプローチするための土台づくりに着手し、具体的事業の試行を行ったことを評価します。地域で活動する団体とのつながりを通じて、「外国人在住ファミリー対象　親子のフリーゾーン」の試行や、障がいのある方を対象とした鑑賞会などを企画しました。 ・本年度は施設の広報にも積極的に取り組みました。YouTubeで公開した動画については、近隣の施設やお店と連携をし、地域の紹介動画としました。また、インスタグラムを開始し、様々な手法で幅広い層へ施設の周知を図っている点を評価します。
	2	在住外国人の方々が来館しやすい仕組みを充実	■英語ウェブサイトでの情報発信多言語化検討、外国人来訪者への多言語対応	随時	実施	-	多言語化に替えてやさしい日本語導入を検討し一部導入		
			■北部地域の国際交流ラウンジとの連携を相談	随時	他団体と実施	-	NPO法人SCCの協力により外国人在住ファミリーへのアプローチとして、親子のフリーゾーンを試行 ・1/16 「外国人親子のための特別フリーゾーン」試行1回　参加7組20名		
	3	幅広い市民の皆様の「やってみたい！」を応援 ※「市民のためのプログラム」は使命2に掲載	あざみ野カレッジ「文化芸術部門」						
			□アート関連	年4回 ※うち1回は横浜美術館連携講座	5回	A	美術系講座を5回開催し、うち1回は横浜【出前】美術館により開催。10月の黄金町連携企画は黄金町エリアマネジメントのOL配信もあり。 ・6/6　現代美術探求ラボ　VOL.9　27名 「美術を巡る環境が如何に変化したか？」 ・7/24　美術史講座「印象派の女性画家たち　メアリー・カサットを中心に」 36名 ・9/11　横浜＜出前＞美術館「イサム・ノグチと神奈川」31名　※横浜美術館共催 ・10/16黄金町連携企画「アーティストのための実践講座 in　黄金町　レジデンスと制作」10名 　黄金町エリアマネジメントからのオンライン配信あり ・2/11 「横浜市所蔵カメラ・写真コレクションから見るカメラと写真の歴史」 14名		
			□年間参加者数	延べ160名	118名	-	コロナウイルスの感染拡大状況や会場の員数制約もあり目標人数未達		
	4	アートで子どもの情操や共感能力を育てる	企画展「あざみ野こどもぎゃらりぃ2021」						
			□来場者数	1,000名	1,031名	B	・7/30-8/8「あざみ野こどもぎゃらりぃ2021『みんなあつまれ！どうぶつパーク』」 魚や鳥の形をしたユニークな創作凧「小関凧」の展示、実際に揚がる凧のワークショップ2回のほか、会場でどうぶつを作るワークショップを9回実施し、またお土産としておうちでどうぶつを作れるキットを配布し作る楽しさを提供。		
			□関連事業　展覧会でのワークショップ	1回	2講座 計11回	A	・7/31ワークショップ「凧をつくろう」2回 対象：小学校1～3年生の親子10組20名 　　小学校4～6年生　9名 ・7/30-8/8「うめぐみパークでどうぶつをつくろう」 9回開催　40組140名		
			予約制だよ！親子のフリーゾーン　※事前予約・定員制						
			□年間延べ参加者数	540名	178組 622名	A	昨年度に引き続き、感染症対策のため予約制で実施 ・予約制だよ！親子のフリーゾーン 月3回　計36回開催／1回5組　5名上限 参加者数　178組622名参加 ・1/16　外国人親子特別フリーゾーン（再掲） 1回／参加者数　7組20名参加 コロナ感染症予防のため予約制を継続、1回の人数を制限し、「道具を共有しない」「テーブルを分ける」「（10月まで）粘土を扱わない」ルールで開催。		
			□月3回	年間36回	37回	B			
			子どものためのプログラム						
			□対象年齢に応じた多彩なワークショップ	年齢別講座　年間8講座 ﾌｧﾐﾘｰ向けWS　年間3回	年齢別8講座 ファミリー向け3回	B	□子どものためのプログラム　8回開催 5/30「焼き物をつくろう」（年長児親子）10組20名 6/5,12,19,26「油絵を描こう」（高学年）9名（のべ34名） 8/22「ゆらゆら動くふねをつくろう」（低学年）8名 9/19「えのぐであそぼう」(年中児親子)10組20名 11/21「ねんどであそぼう」(年中児親子)9組18名 12/13「木工しよう」(年長児)12名 2/23「真鍮アートに挑戦」」(高学年)14名 3/20「お気に入りの一枚を刷ろう」(低学年)9名 ※地元企業・古河電工パワーシステムズ㈱の社員ファミリー向けワークショップは緊急事態宣言中となり中止」。 □ファミリー向けワークショップ　3回開催 ・5/5「アクアドームをつくろう」（小学生以下ファミリー）17組65名 ・10/24「ペーパーパペットをつくろう」（小学生以下ファミリー）15組54名 ・12/5「クリスマス飾りをつくろう」（小学生以下ファミリー）16組52名		
			□延べ参加者数	年齢別講座　延べ80名 ﾌｧﾐﾘｰ向けWS　延べ50名	年齢別：137名 ﾌｧﾐﾘｰ向け：171名	A			
			□横浜市芸術文化教育ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑ 年間実施校数及び参加者数	4校（想定） 延べ350名	4校 延べ851名	B	コロナによるまん防期間と重なり、学校との調整を経て予定通り4校実施。 □横浜市芸術文化プラットフォーム　4校実施 ・11/12,15,16つつじが丘小学校（5年生2クラス　のべ121名）　川崎和美/段ボールアート ・11/24,25,12/1新羽小個別支援級　のべ54名 三ツ山一志/段ボールアート ・12/3,2,8新吉田小（5年生3クラスのべ380名） 山田裕介/リサイクルアート 　※資材協力：有限会社かなめ ・1/25,27,2/1藤が丘小学校（5年生3クラス　のべ296名） 山田裕介/リサイクルアート ※資材協力：古河電工パワーシステムズ株式会社		

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅰ文化事業目標		指定管理者提案（要旨）	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
使命1 横浜市北部地域の子どもや高齢者、障害者、外国人、様々な経済事情にある方、性別にかかわりなく幅広い属性の方へ、社会的包摂の視点を踏まえ、美術を中心とした文化に触れる機会を提供し、豊かな感性を育むとともに、多様な価値観を受け入れる文化の醸成に貢献する。	5	障がいのある方を対象とした事業	□親子で造形ピクニック	月1回、延べ120名	12回 延べ174名	A	参加人数を絞り、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い開催 年間12回、参加者数：57組172名 4/24、5/8、6/12、7/10、8/7、9/4、10/2、11/6、12/4、1/15、2/12、3/5	【課題】 フリーゾーンや子どものためのプログラム（ワークショップやファミリーワークショップ）は、毎回倍率が7-10倍になるほどの人気があり、参加を希望する方全員に参加していただけない状況が続いています。感染症の状況との兼ね合いで、定員増を検討していきたいと考えます。 今年度生まれた地域との連携を、令和4年度またその先につないで行けるよう、相手のニーズと施設が提供できることを丁寧に掘り起こしていく必要があります。	【更なる取組を求める点】 ・地域で活動する団体との連携をすすめ、市民ギャラリーあざみ野としての事業が着実に広がりを見せています。これまで取り組んできた企画のノウハウを活かし、幅広い属性の方が文化に触れる機会を提供し文化の醸成に貢献することを期待します。 ・各種事業の企画において、コロナ感染症対策による変更や中止を余儀なくされました。しかしながら、芸術文化教育プラットフォームやロビーコンサート等の事業において継続している地元企業等との連携を絶やすことなく、実施可能な手法に変更等を行いながら事業を行いました。次年度以降も状況に合わせ、地元企業等との連携の深化、アウトリーチの強化により、文化芸術を核として、引き続き地域活性化に資する活動を行うことを期待します。 ・「高齢者が文化芸術活動に参加し担い手となる取組み」及び「在住外国人の方々が来館しやすい仕組みの充実」についても次年度以降の取組に期待します。
			□造形活動による特別支援学校・個別学級支援（学校利用）	年10回程度 延べ150名	7校計8回実施 ※2校が中止 延べ154名	-	造形活動による学校支援「アトリエ学校利用」 個別支援学級や特別支援学校の学校単位での造形体験の場としてアトリエを提供。一回の人数を20名以下に絞り新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い開催した。 年間7校8回開催　参加者数：154名 コロナによるまん防期間と重なり、学校との調整により、2校が取りやめとなった。		
			□アートなピクニック―視覚に障がいのある人とない人がともに楽しむ鑑賞会―	企画展開催時に年1回以上 ※新型コロナウイルス感染状況により検討	感染症対策のため実施せず	-	鑑賞者への接触や近距離での会話が必要なため、コロナの状況を鑑み実施を見送り。		
	6	施設を訪れたすべての方々にアートの息吹を ※企画展「あざみ野コンテンポラリー」 「あざみ野フォト・アニュアル」は使命2に記載	フリースペースでの小展示						
			□ショーケースギャラリー （若手アーティスト作品展示）	年4回→年3回	年3回	B	当館の特色に沿ったテーマにフォーカスし3回の開催に変更。		
			□ショーケースギャラリー 準備段階・作家インタビューを収録し、動画配信	年4本→年3本	年3本	B	当館の特色に沿ったテーマにフォーカスするため、開催を3回とし、展示作業のようすを含めたインタビューを収録しYouTubeで公開。 □ショーケースギャラリー（小展示） 1Fエントランスでの小展示。今年度から当館の特色にフォーカスしたテーマで年3回開催 ・7/10-9/20　アーティスト×横浜市所蔵カメラ写真コレクション　山本愛子 ・9/25-12/12　黄金町エリアマネジメントセンター連携　常木理早 ・1/8-3/20　シリーズ陶の表現　後藤有美 □展示作業のようすとアーティストインタビューの動画をYouTubeで配信　3本		
			□フェローアートギャラリー （障がいのあるアーティスト紹介）	年4回	年4回	B	□フェローアートギャラリー　年4回 （1/27-4/25　澤井玲衣子　前年度事業） ・4/28-7/25　小林太 ・7/28-10/24　神例幸司 ・10/27-1/23　小松和子 ・1/26-4/24　武田佳子		
			□フェローアートギャラリー 他施設へのアウトリーチ展示	年1回以上	年1回(2日間) 延べ1,952名	B	フィリアホール通路（無料エリア）で展示を実施。 □フェローアートギャラリーエクステンション 年１回 11/6-1/24　小松和子の作品３点 青葉区民文化センターフィリアホール通路（無料エリア）で初展示		
			エントランスでの無料コンサート開催（センター北共催）						
			□ロビーコンサート開催	年10回以上 （延べ700名）	クラシック音楽を中心に年10回 1,061名	A	設置席数を40席程度に減らし、ガイドラインに定めたアクティングエリアからの距離確保、演奏者の前にアクリル板を設置し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じて実施。 □年10回、来場者数　計1,061名 5/23・6/27・7/25・9/26・10/17・12/19・1/9・2/13・3/13、10/24は特別版としてレクチャールームで開催 ※男女共同参画センター横浜北と共催 ※10/17, 24　横濱ジャズプロムナード連携事業 ※10/24　横浜みなとみらいホール協力 センター北が開催費用負担から抜け名義共催。		

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅰ文化事業目標		指定管理者提案（要旨）	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
使命2 市内外に向けて、カメラ・写真コレクションを活かした映像分野の拠点となるとともに、現代のアートの発信拠点となる。また、多様な美術分野（新旧含めた多様な時代、平面・立体、版画や陶芸等の様々な技法等）への様々なアプローチを用意することで、美術に対する関心を喚起する機会を創出し、北部地域の文化活動人口（文化活動支援者も含む）の増加に貢献する。	1	横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの活用	企画展「あざみ野フォト・アニュアル」	1回				【成果】 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションを軸に据え、横浜の映像分野の拠点としての継続的な発信を行いました。 企画展「あざみ野フォト・アニュアル2022」では、中井菜央による「雪の刻」と、カメラの歴史をテーマに所蔵品から150点を選び展示を行いました。正統派の写真展という評価と、体系的なカメラの歴史の展示は、とても見ごたえがあり当館らしいとの評価をいただきました。 当館の特色である現代アートへのアプローチについては、彫刻家・對木裕里による企画展「ばらばらの速度」において有機的で不思議な形状の作品約40点を紹介し、鑑賞者の創造力を楽しく刺激する展示となりました。 エントランスで行う「ショーケースギャラリー」では、今年度よりテーマを設定して３人の新進作家に依頼しました。それぞれ「カメラ・写真コレクション」「黄金町との連携」「陶芸」をテーマに展開することで、当館の特色により明確にフォーカスする展示となりました。 作家やその作品について、より理解を深めてもらうために、作家自身のことばで語り、届けてもらうことは極めて有効です。企画展の関連イベントとして、アーティストトーク、対談を4回開催し、作家と作品、そしてアートへの興味と関心を開く機会を提供しました。 コロナによりインターネットによる情報発信が当たり前になりましたが、当館で展示を行った作家のインタビュー動画はこれまでもHPでアーカイブを公開しており、今年度も企画展とショーケースギャラリーの作家５名のインタビューを、展示風景とともにYouTubeで公開中です。 コロナで昨年度は実施ができなかった小学校写真ワークショップとその展示「写真と俳句」展、教師のためのアニメ―ション制作ワークショップについては、開催が叶いました。 市民向け講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドラインに則り人数や換気に留意した上で、全講座を予定どおり開講しました。	【評価できる点】 ・「あざみ野フォト・アニュアル」「あざみ野コンテンポラリー」各企画展において、コロナ禍の状況を鑑みても多くの方が観覧するとともに満足度が高いことを評価します。また、企画展において若手作家の作品紹介の場を提供した点を評価します。 あざみ野コンテンポラリーでは現代アートの魅力を発信するとともに、作家の魅力を鑑賞者に伝えるための取組を行いました。同時期に開設したInstagramで行った展示作品の投稿は、同展示作品の魅力を視覚に訴える効果的な広報となりました。今後も現代アートの発信拠点としての役割を果たしていくことを期待します。 ・カメラ・写真コレクション保存・研究・Web公開について、日常的な維持管理と調査研究を行い、データベースの整理を進めるなどコレクションの存在周知に取り組んだ点を評価します。 ・他施設への貸出や展示及び情報誌での紹介など、収蔵品の活用に積極的に取り組んだ点を評価します。 ・「市民のためのプログラム」について実施可能な方法に切り替えて開催したことを評価します。コロナ禍で市民の方の活動が制限されるなか、継続して活動の場を提供しました。その結果として参加者の満足度が高いものとなっています。 【更なる取組を求める点】 ・事業の企画が非常にきめ細やかになされ、顧客満足度の高さなどからも分かるように、評価の高いものとなっています。これらの企画展の周知方法について更なる検討を期待します。 ・引き続き、カメラ・写真コレクション保存・研究・Web公開について、周知を進めてください。 ・令和3年度から開設したInstagramは展示や事業の様子を周知する有効な手段です。更なる活用方法の検討を期待します。
			□来場者数	1,500名	3,112名	A	あざみ野フォト・アニュアル2022 展示室1「雪の刻　中井菜央展」、 展示室2「横浜市カメラ写真コレクション展　視る装置　19～20世紀のカメラの変遷」 □来場者数：3,112名　※人数は展示室1と2の合計 □平均満足度：4.73（5点満点） 【関連事業】（企画展） □2/19対談　中井菜央×佐藤雅一（なじょもん学芸員）26名 □2/27アーティスト・トーク　中井菜央　30名 【関連事業】（コレクション展） □2/5ワークショップ「カメラ・オブスクラをつくろう」 12名 講師：野村浩（美術家） □2/11あざみ野カレッジ「横浜市所蔵カメラ・写真コレクションから見るカメラと写真の歴史」 14名 □2/6・2/20「コレクション学芸員によるギャラリー・トーク」 計26名		
			□平均満足度	4.6以上	4.73	B			
			映像関係ワークショップ						
			□一般対象（「市民のためのプログラム」内）	年1回	1回	B			
			■子ども対象（教育機関との協働） ・小学校出張写真ワークショップ ・教師のためのアニメーション制作プログラム ・横浜市立中学校ｱﾆﾒｰｼｮﾝﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ（共催）	小学校出張WS：年1コース 教師のためのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ：年1回 アニフェス：年1回	実施	-	・6/21-7-13山内小学校出張カメラワークショップ 5年生3クラスに実施のべ369名　6コマ実施 、10/21-10/24展示「自分の思いと写真　写真と俳句展」開催 入館者362名 どちらもよこはま縁むすび講中事業として展開。 ・7/30「教師のためのプログラム」アニメーション・ワークショップ　対面1回　19名、オンライン1回　17名 ※横浜市教育委員会と共同主催 ・1/23横浜市中学校アニメーションフェスティバル 上映会　46名　出品校・生徒数　12校199名 会場：市庁舎アトリウム ※横浜市教育委員会・横浜市立中学校教育研究会美術部会、横浜市立学校総合文化祭実行委員会との共同主催		
			カメラ・写真コレクション保存・研究・Web公開	実施	実施	-	カメラ・写真コレクション保存・研究・Web公開 ・収蔵作品の状態確認・調査・整備の実施、不正確な目録を調査、補完して修正。 ・データベース整備　随時 ・経常的な作品の状態確認、修復の実施 ・収蔵環境の調査を実施 ・外部からの貸出、熟覧について対応 ・町田市国際版画美術館へ4/24-6/27開催「映える風景を探して」展に当館所蔵品を貸出 ・情報誌「アートあざみ野」に「Gallery on the Magazine」としてコレクション紹介の記事連載　年3回 ・東京都写真美術館、日本カメラ博物館、横浜美術館などの専門機関とは日常的に連携し、コレクションの管理等について情報交換 ・カメラ・写真コレクションの英語版データベースの運営		
			□ギャラリー イン ザ ロビー（テーマ別コレクション紹介）	年4回	4回	B	・5/8-5/30カメラのしくみ ・10/2-10/24カメラのアール・デコ ・10/27-11/14アジアのカメラ ・3/5-3/24カメラの形のおもちゃ・雑貨		
			□コレクション紹介HP、コレクション・データベースの閲覧件数	年1,000件	1,686件	A	・城西国際大学メディア学部メディア情報学科ニューメディアコースの学生によるiPadでの説明提供 ・2/5ワークショップ「カメラ・オブスクラをつくろう」（再掲）14名 ・コレクション・データベース　登録件数2418件		

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅰ文化事業目標		指定管理者提案（要旨）	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
使命2 市内外に向けて、カメラ・写真コレクションを活かした映像分野の拠点となるとともに、現代のアートの発信拠点となる。また、多様な美術分野（新旧含めた多様な時代、平面・立体、版画や陶芸等の様々な技法等）への様々なアプローチを用意することで、美術に対する関心を喚起する機会を創出し、北部地域の文化活動人口（文化活動支援者も含む）の増加に貢献する。	2	現代アートの発信拠点として	企画展「あざみ野コンテンポラリ―」	1回				横浜市所蔵カメラ・写真コレクションについては、日常的な維持管理と調査研究に取り組むほか、データベースのWEB公開を行っています。令和3年度末の公開件数は1686件です。 【課題】 現代アートの発信地、またカメラと写真を軸とした事業展開は当館の特徴であり、事業として定着していますが、地域の市民のみなさんに浸透しているとは言い難い状況が続いています。 使命1，3，4の達成とあわせた課題として、地域へのさらなる周知や周辺のみなさんの来館促進につながる方策を検討します。 令和3年度からスタートしたInstagramをはじめ、SNSを活用した広報や地域団体との連携による「口コミ」などを活用することを視野にいれた広報戦略を検討します。	（評価は前ページに記載）
			□来場者数	1,500名	1,238名	C	10/9-10/31「あざみ野コンテンポラリーVol.12「對木裕里 ばらばらの速度」 来場者1,285名 平均満足度4.73（5点満点） 彫刻家の對木裕里による個展。出点作品約40点のうち約半分は新作。有機的で不思議な形状の面白さ、唐突にも感じられる素材の組み合わせ、パステルカラーの彩色といった特徴的な作品群による構成となった。展示空間を存分に生かしたインスタレーションは来場者の創造力を刺激するものとなった。 【関連事業】 ・10/9アーティストトーク　對木裕里／聞き手：佐藤直子（担当学芸員）　15名 ・ワークショップ「石と、石と全然違うもののレリーフ」ファシリテーター：對木裕里　11名 ・10/30対談　對木裕里／森啓輔（千葉市美術館学芸員）		
			□平均満足度	4.6以上	4.73	B			
			□アーティストインタビュー（アーカイブ）の活用・発信	年5回以上	5回	B	コンテンポラリー展およびフォトアニュアル出品作家、ショーケース・ギャラリー作家計5名のインタビューをYouTubeで公開		
	3	市民の皆さんが主体となって文化芸術活動に関わる取組 （使命1：幅広い市民の皆様の「やってみたい！」を応援）	市民のためのプログラム			チェック			
			□オープンスタジオ「着衣クロッキー」 （1コース4回）	5コース　計17回	**8コース 計28回**	A	市民のためのプログラム 年13コース開催、参加者数：のべ588人 ・オープンスタジオ「着衣クロッキー」年間8コース（4・5月は1コース2回、6月以降は4回）のべ330名 ・はじめてのデッサン　1コース　5回のべ75名 ・はじめての透明水彩　1コース　5回のべ68名 ・キャンバスをつくる　1コース　2回のべ23名 ・はじめての油絵　1コース　5回のべ75名 ・器で絵画をつくってみよう（ショーケースギャラリー関連WS）　1コース　2回のべ17名 さまざまな内容のプログラムを用意し市民の「やってみたい」に応える講座を開催し、毎回応募数が定員を上回り抽選となる人気。 オープンスタジオ「ヌード・クロッキー」については十分な換気について環境の維持が難しくコロナ感染の懸念があるため今年度は実施を見合わせ 平均満足度4.79（5点満点）		
			□写真・水彩等各分野の講座	5コース　計20回	**5コース 計19回**	B			
			□年間延べ参加者数	延べ370名（着衣クロッキー200、写真等170）	**553名**	A			
			□平均満足度	4.6以上	**4.77**	B			

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅰ文化事業目標		指定管理者提案（要旨）	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
使命3 地域コミュニティが抱える課題に対して、文化芸術を通じたアプローチを行うことで、市民の皆さんがこうした課題に気づき、考えを深める契機を創出する。	1	文化芸術を媒介として、分野を越えた協働により地域コミュニティの課題に向き合います	□行政や教育機関、福祉・医療施設、自治会やシニアクラブ、区民利用施設等に対し、文化芸術面からのアプローチを模索し、他の領域と創造性を活かして協働する中から、市民が自ら課題に向き合えるきっかけを作る	協働する団体　2件以上	協働：7団体	A	やさしい街あざみ野実行委員会では、あざみ野商店街を中心に福祉やまちづくりに携わる方たちとの繋がりができ、よこはま縁むすび講中では北部地域の文化施設・団体との連携、情報交換を図ることができた。 協働した（する）団体：やさしい街あざみ野実行委員会、GrASP,スペースナナ、山内図書館、フィリアホール、慶應横浜初等部、荏田地域ケアプラザ、大倉山精神文化研究所、SCC	【成果】 文化芸術の力を活かし、地域の課題にともに向き合うという大きな使命に対して、具体的なテーマを見出だしアプローチすることができた年となりました。 あざみ野の商店街を中心に活動する認知症患者の支援団体「やさしい街あざみ野実行委員会」にメンバーとして加わって活動をすすめるなかで、当館の事業理念と先方の思いがが一致し、「おでかけ鑑賞会」や「高齢者向けのワークショップ」などのアイデアの具体的な検討に進むことができるました。さらに参加メンバーとそれぞれの関係性を深め、ともに協力できる事業として、高齢者や認知症の方の対話型アート鑑賞会を提案し、令和4年度実施に向けた取り組みをスタートさせました。 在住外国人支援団体であるSHARING CARING CIRCLE（SCC）とつながることで、青葉区を中心とする外国人ファミリー向親子のフリーゾーンを、SCCサポートの下、試行することができました。事業終了後、SCCにヒアリングを行い、課題の抽出を行いました。 アーティストトークや対談を通じて、その制作の意図や問題意識を語ってもらい、今という時代に向き合うことの考える機会を提供しました。 フェローマルシェについては、コロナの感染症対策を講じながら予定通り実施できました。 あざみ野サロンについては、実施内容を「アート×ジェンダー」に特化させて開催することで企画意図を明確にしました。令和2年度企画でコロナで延期となった「台所は女の城か」を生活工房で開催しました。 【課題】 コロナ感染症対策の関係で、対面で行う意識調査は実施ができず、書面アンケートでの意見収集に替えています。 またアートサポーターの協働の場についても、感染症予防のため事業参加人数を絞っている状況下では提供できていません。令和4年度はWITHコロナの観点から検討したいと考えます。	【評価できる点】 ・提案書に記載されていた「地域コミュニティへの課題に対する文化芸術面からのアプローチ」に対する取組を具体化し積極的に取り組みました。本年度は地域団体との連携事業が具体的に進み、施設の事業が広がりを見せました。 ・やさしい街あざみ野実行委員会を通じた地元地域団体との連携事業に着手しました。双方の専門性を活かし、地域に根差した新しい事業の実施に向け計画を進めた点を評価します。 ・イベントの共同立案を行う等、複合施設である男女参画センター北との協働事業にも積極的に取り組みました。 ・よこはま縁結び講中事業を通じ、地域公共施設との連携を深め、相互の専門的なノウハウを生かした多様なテーマの事業に取り組んだことを評価します。 ・青葉区民文化センターとのフェローアートギャラリーの連携事業の実施や、緑区民文化センターとの意見交換など近隣施設との繋がりが深化しました。 【更なる取組を求める点】 ・本年度具体化した各連携事業について、実施に向けた更なる取組を行い、市民ギャラリーあざみ野の新たな魅力の創出につなげていただくことを期待します。 ・開催した各種講座などにおいて、参加者の意見等を丁寧に聞き取り、ニーズの分析、課題の明確化を行いました。今後の企画に生かしていただくことを期待します。
	2	市民が自ら課題に気づき考えを深める契機を創出します	□企画展「あざみ野コンテンポラリー」「あざみ野フォトアニュアル」出展作家によるアーティストトークや対談及び動画や記録映像のWeb配信	年間2回以上	動画2本 トークイベント5回	A	□アーティストインタビュー YouTubeで對木裕里氏・中井菜央氏　2本公開 □アーティストが自ら作品や制作の背景を語るトークイベントの開催　4回 ●企画展「あざみ野コンテンポラリー」 ・10/9アーティストトーク ・10/30対談 ●「あざみ野フォト・アニュアル2022」 ・2/19対談 ・2/26アーティストトーク		
			■「予約制だよ！親子のフリーゾーン」参加者への文化芸術参加環境に関するアンケート調査	実施	実施	-	・対面での聞き取りではなく顧客満足度調査の中で項目を設けて実施 ・「外国人親子向けフリーゾーン」終了後に、協力団体であるSCCのメンバーに、イベントの内容や運営方法について意見聴取を行い、今後の事業開催の参考となる意見を得た。		
			■各種ワークショップ、講座参加者への文化芸術参加環境等に関するアンケート調査	実施	実施	-	・顧客満足度調査の中で項目を設けて実施		
			■「あざみ野カレッジ」終了後、「生涯学習」に対するアンケート調査	実施	実施	-			
			□アートサポーターとのワークショップでの協働	年2回以上	未実施	-	ワークショップの人数を感染症対策で制限中であるためアートサポーターの参加は困難と判断		
			□あざみ野フェローマルシェ 障がいのある人たちの手掛けた物品などを　発表・販売する場を提供・支援	年4回以上	年5回	A	あざみ野フェローマルシェ 年5回開催 6/9, 7/31, 10/23・10/24, 11/21 来場者数：4,362名 のべ参加団体数：33団体		
	3	センター横浜北との連携をさらに充実させます	あざみ野サロン						
			□音楽、大衆芸能に留まらずLGBTQ、女性社会進出関連の講演会、映画等	年1回　延べ70名 ※ほかにｾﾝﾀｰ横浜北との共催事業を適宜実施	年2回 延べ46名	B	センター北との協議により、ジェンダーを内容にしたイベントを「サロン」と位置付けて共催開催に位置付けを変更。 あざみ野サロン　2回（自主1回、共催1回） ・VOL.74　10/24講演会「ジェンダーとアート～私らしさを拡げる絵本の世界」 講師：東條知美（絵本コーディネーター）　20名 ※センター横浜北企画、会場セミナールーム ・VOL.69　3/20講演会「マイホームの夢とキッチン-台所は女の城か」（令和1年度事業の延期開催） 講師：田丸理砂（フェリス女学院大学教授）26名 会場：生活工房		

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅰ文化事業目標		指定管理者提案（要旨）	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
使命4 文化施設として求められる専門性と、地域施設として求められる役割をふまえ、かつ、地域の様々な資源を有機的に結び付け、地域コミュニティのベースとなる文化的コモンズの形成に貢献する。	1	地域の資源を発掘し、市民とつなぎます	あざみ野カレッジ「地域資源部門」					【成果】 “文化芸術を媒介として、北部地域の公共施設、教育機関、市民団体、企業、自治会といったさまざまな組織や団体がつながり合い、その協働から地域の活力を生み出す”という使命に対し、今年度「よこはま縁むすび講中実行委員会」が立ち上がり、北部４区の博物館・文化施設が話し合いの場を持ち、連携して地域の文化資源を発見・紹介する事業がスタートしました。今まで具体的な接点の少なかった団体同士の間に交流が生まれ、継続的な事業展開と情報交換の機会となりました。 あざみ野カレッジはよこはま縁むすび講中主催事業１本2講座を含む4回開催し、いずれも好評でした。特にまち歩き企画は参加者に「地元の知らない場所を歩き発見があった」との感想がありました。 同じ青葉区内の文化施設であるフィリアホールとの「フェローアートギャラリー　エクステンション」による事業連携、みどりアートパークとのピアレビューのための意見交換など、ネットワークが始動した年となりました。 開館記念日である10月にアートフォーラム16thアニバーサリーを開催しました。土日の２日間にイベントやフェローマルシェを集中させ、お祭り感を醸成しました。 目標項目には上げていませんが、近隣の神奈川県立養護学校の職業体験の受け入れを行いました。生徒2名を2日間、センター北とギャラリーでそれぞれ１回ずつ担当しました。また山内小学校学校運営協議会メンバーとして館長が参加しました。地域の頼れる施設として存在感を発揮しました。 横浜市芸術文化プラットフォーム「リサイクルアート」で使用する資材を地元2社から無償提供いただきました。うち１社の担当者様に授業で資材の説明をしてもらうなど、一方通行ではない関わりができました。 【課題】 地元大学連携については、糸口を探している状態であり、引き続きの調査、開拓が必要です。 よこはま縁むすび講中によるつながりを、助成金のあった令和3年度限りではなく、今後も事業展開に活かしていくことが課題と考えています。	（評価は前ページに記載）
			□地元の資源を題材とする講座	年3回 延べ120名	年4回 延べ67名	B	地域資源をテーマにしたカレッジを4回開催。うち2回をよこはま縁むすび講中事業として実施。 あざみ野カレッジ「地域資源部門」 　地元の地域資源を題材とする講座 　年4回開催　計67名 ・10/17地元オーディオ機器メーカーによる「ハイエンド・オーディオでジャズの黄金時代を聴く」 協力：アキュフェーズ株式会社（青葉区）25名 ・11/13「青葉区の大山街道を知る①学び編　大山信仰と大山道」 29名 ・11/27「青葉区の大山街道を知る②散策編　大山街道・荏田宿周辺を歩く」 13名 ・2/11あざみ野フォト・アニュアル2022関連「横浜市所蔵カメラ・写真コレクションから見るカメラと写真の歴史」 14名		
			□地元大学等連携事業・共同ワークショップ	年1コース　40名	ー	-	感染症の影響により、連携のあり方検討に留まる		
	2	地域の様々な担い手とつながる機会を作ります	■アートプラザのお弁当やさん（地産地消促進、地元起業家支援）	随時	年36回	-	北部地域で主に活動するキッチンカー・お弁当やさん4店が出店。 新規出店開拓　1店舗		
			□アートフォーラムフェスティバル（センター北共催）	年1回　延べ1,000名	年1回(2日間) 延べ1,952名	A	10/22,23アートフォーラム16thアニバーサリーとして開催1回 ※男女共同参画センター横浜北と共催 　２日間に両館の事業やフェローマルシェを集中して展開し開館記念日のイベント感を醸成		
			青葉区主催事業への共催						
			■あおば美術公募展　共催・協力	実施	実施	-	実行委員会会議への参加、会場設営・運営協力、利用料金減免 ・あおば美術公募展　7月 ・青葉区民芸術祭　12月		
			■青葉区民芸術祭　協力	実施	実施	-	・神奈川県立麻生養護学校の職業体験受け入れ 　生徒2名をアートフォーラムあざみ野として2日間×2回受け入れ（センター北1回・ギャラリー1回） ・山内小学校学校運営協議会メンバーとして館長が出席し意見交換		
			□子ども向けワークショップの地元企業との連携「こどものためのプログラム」	年1回	年2回（2企業）	B	横浜市芸術文化プラットフォームで使用する資材を地元企業の無償提供を受け実施 ・12/3,2,8新吉田小（5年生3クラス） 山田裕介/リサイクルアート 　※資材協力：有限会社かなめ（港北区） ・1/25,27,2/1藤が丘小学校（5年生3クラス） 山田裕介/リサイクルアート ※資材協力：古河電エパワーシステムズ株式会社（青葉区）		
	3	北部地域の文化施設全体が、文化的コモンズの形成に貢献できるよう協働します	■東急田園都市線沿線「文化施設」相互ピアレビュー協定実施に向け3館による検討会議実施	随時	実施	-	R4年度の実施に向けてみどりアートパークと協議継続		
	4	新たなつながりと活力を生む、「あざみ野河津桜坂文化圏（仮称）」創出	□文化圏形成向けた各施設への構想打診及び集合会議の開催	地元地域連絡会議への参加団体：5団体	地元地域連絡会議への参加団体：5団体 「よこはま縁むすび講中」で実施	B	よこはま縁むすび講中実行委員会（横浜市歴史博物館・みどりアートパーク・小机城のある町を愛する会・大倉山精神文化研究所）として地域資源発見、発信する事業を展開。 文化庁助成金「令和3年度地域と協働した博物館創造活動支援事業」によるよこはま縁むすび講中実行委員会が立ち上がり、北部4区の文化施設が連携し地域資源の発見・発信に向けて始動した ・「山内小学校カメラ・写真ワークショップとその展示」「あざみ野カレッジ　青葉区の大山街道（全2回）」「あざみ野・アートフォーラム通り動画制作」の３事業を展開。 ・「アートフォーラム通り」動画公開とちらし作成 あざみ野駅をはじめ、地区センター、メルセデスベンツあざみ野等近隣の15の施設・店舗を紹介。 ・「アートフォーラム通り」ちらしを各施設・店舗で配架 ※使命3再掲		

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅰ文化事業目標		指定管理者提案（要旨）	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
使命５ 利用者本位の運営を行うとともに、文化施設としての専門性を発揮し、北部地域の市民の皆さんに親しまれる施設となる。	1	利用者ニーズの把握	■アンケート実施およびスタッフ回覧 対象：施設利用者、来場者	随時	実施	-	記載どおり実施	【成果】 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として「横浜市文化施設ガイドライン」をベースに、来館者が安心して利用できるよう、スタッフの経験と知見を活かして施設運営を行いました。 ご利用にあたっては、打ち合わせを丁寧に行い、感染症対策として飛沫防止スクリーン・手指消毒液・除菌シートを施設から提供しました。また緊急連絡先の収集についてもアドバイスを行いました。 来館者・利用者の方々に「また来たい」「また使いたい」と思っていただけるよう、ホスピタリティあるコミュニケーションを心がけ、アンケートに寄せられた意見を運営に活かしました。 「緊急事態宣言期間」「まん延等防止措置期間」については、施設利用のキャンセル・返金にガイドラインに則り対応しました。 感染症の状況に配慮し、アトリエ利用抽選会を10月開催分から利用希望者来館方式から事前に希望日時を聞きとりして調整し、重複案件のみ抽選実施に変更し、来館や集会の機会を最低限にしました。 コロナウイルスの感染状況が見通せない状況のため、新規利用の開拓や「ギャラリーお試し事業」については令和2年度に引き続き、実施を見合わせました。 初めての利用者・団体には搬入・搬出を立ち会ってサポートを行いました。また利用団体の高齢化を考慮し、展示・撤収作業について安全な作業が行われているか目配りをしました。 【課題】 展示室の利用は、令和2年度と比べると回復していますが、今後の高齢化による利用の低下が想定され、新規利用の開拓は必要になってきています。 施設利用のルールは踏まえつつも、積極的な貸出し提案や、利用者のニーズとの折り合いを探っていくことが課題です。	【評価できる点】 ・新型コロナウィルス対応により、内容の変更等に対応した運用となりましたが、工夫を凝らし可能な範囲で地域の文化芸術活動の発表の場を提供しました。特に、施設貸出にあたり、施設スタッフが展示に応じたきめ細やかな利用調整、アドバイス等を行うことで、満足度の高い展示環境を提供したことを評価します。 【更なる取組を求める点】 ・課題として挙げられている、利用団体の活動力が低下による施設利用への影響についての対策の検討を進めていただくことを期待します。
			■意見聴取（展示室・アトリエ施設利用者）	随時	実施	-	社会情勢を鑑み、ヒアリングに替えてアンケート書面による意見集約を行った。		
	2	施設貸出の考え方	■公平・公正で透明性の高い施設貸出を実施	実施	実施	-	記載どおりに実施		
			■専門性の高いサポート、ホスピタリティを提供	実施	実施	-			
			■新規貸館利用者の創出に向けたインターネット広報を充実	実施	実施	-			
	3	施設貸出の流れと取り組み	■展示室：１週間単位（火曜日～月曜日、最長2週間まで）で利用受付	実施	実施	-			
			■空き情報を即時ホームページ（以下HP）上で公開のほか、SNS等で従来利用者以外への情報発信を行い、展示室利用率100%の維持に努める。	実施	実施	-			
			■貸館利用チラシを近隣の美術サークル、芸術関係の団体に配布	実施	未実施	-	貸館利用ちらしのリニューアルを年度末に行ったため、R4年度へ先送り。		
			■利用開始前3ヶ月程度で空きが発生している場合、「ギャラリーお試し利用事業（仮）」の実施を検討	年1回	未実施	-	コロナで緊急事態宣言・まん延防止等措置期間があり、積極的な貸出促進ができない状況のため、未実施		
	4	利用者へのコミュニケーションとサポート	■専門性に基づいた 展示構成アドバイス	実施	実施	-	記載どおりに実施		
			■コンシェルジュとして相談に応じる	実施	実施	-	利用団体構成員の高齢化を考慮し、展示・撤収作業の安全な作業への目配りを行った。		
			■利用団体に対しての広報協力						
			・「展示室・アトリエスケジュール」（当館HP）	実施	実施	-	記載どおりに実施 利用者と打ち合わせ時に横浜市ガイドラインを確認		
			・「ヨコハマ・アートナビ」、「マグカル」等への情報提供	実施	実施	-	記載どおりに実施		
			・利用期間中の展示の様子を、HPやSNSで発信	実施	実施	-	HPのカレンダー、Twitter、FACEBOOKで発信		
			・情報誌『アートあざみ野』への掲載	年3回実施	年3回実施	-	アートあざみ野Vol.58 、59、60に情報掲載		
			・エントランスロビーのラックにチラシ等の配架	実施	実施	-	チラシラックに配架 「ヨコハマ・アートナビ」「マグカル」等への情報提供		
			■物品の預かり アトリエ継続的利用団体への備品保管ボックス貸出	実施	実施	-	9団体について荷物の預かりを継続実施		
	5	文化施設としての専門性を発揮するための人材配置とその育成	■当団体の人材マネジメント・ポリシーを遵守	実施	実施	-	記載どおりに実施		
			■事業担当と施設運営担当について、当団体の人材をバランスを考え配置	実施	実施	-	記載どおりに実施		
			■OJT及び各種研修による事業担当職員及び施設運営担当職員の育成	実施	実施	-	記載どおりに実施		

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅰ文化事業目標		指定管理者提案（要旨）	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
使命6 適切な維持管理を行い、法令を遵守することで、安全で快適な施設を維持する。予防的修繕にも着実に取り組む。	1	施設管理・環境維持・警備等－共有部分について	□センター横浜北・管理委託会社との「管理合同ミーティング」を開催	月3回以上	毎火曜日実施（月4回）	A	・毎週火曜日13：15より当館・男女・西田装美（設備、警備、1F3F受付）により実施	【成果】 市民の皆さんに安心・安全で快適な場を安定的に提供するために、センター横浜北および設備管理会社、警備担当と週一回の定例ミーティングを行い、施設の日常的な環境維持や予防的修繕に活かしました。 スタッフ全員による実践的な防災訓練をはじめ、研修受講による一人ひとりの防災意識を高めるとともに、近隣公共施設と定期的な情報交換により地域全体での防災強化に努めました。 共用部分、専有部分とも記載どおりに実施しました。陶芸窯については、3月に横浜市負担において更新工事を行いました。	【評価できる点】 ・年間を通じて適切な維持管理を実施した点を評価します。同一建物内に設置された男女共同参画センター横浜北の指定管理者とも定期的なミーティングを行う等、密に連携を取りながら、効率的に施設管理を行いました。 【更なる取組を求める点】 ・引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。
			■法令を遵守し、必要な保守点検や測定の実施	随時	実施	-	記載どおりに実施		
			■全職員による目配りにより、日常的な維持管理に努める	随時	実施	-	記載どおりに実施		
	2	施設管理－専有施設について	展示室						
			□展示室壁面の塗装チェック、必要箇所の塗り直し	年1回	年1回実施	B	・1/24展示室壁面補修実施		
			□展示室可動パネルの保守点検	年1回	年1回実施	B	・1/24実施		
			■展示室可動パネルの消耗品交換、稼働状況のチェック、壁面の補修	随時	実施	-	記載どおりに実施		
			■展示室貸出備品の点検・整備	随時	実施	-	記載どおりに実施		
			□高所作業車保守点検	年1回	各1回実施	B	・5/29パッシブインジケータ環境調査、6/24マンリフト、2/7ポルティリフト保守点検実施 ・3/1　2階展示室床コンセント絶縁対応工事		
			アトリエ						
			□アトリエ壁面のリタッチ	年1回	年1回実施	B			
			■貸出附帯設備・音響設備の点検、整備	随時	実施	-			
			□陶芸用電気窯保守点検	年1回	窯更新により実施なし	-	・10/22パネルソー保守点検、3/28陶芸窯更新		
			□土練機、パネルソー保守点検	年1回	年1回実施	B			
			その他（搬入口・荷捌室・作品保管庫等）						
			□衛生設備（新ガス消火設備、連結散水設備等）保守点検	年2回	年2回実施	B			
			□昇降機設備保守点検	月1回	月1回実施	B			
	3	横浜市所蔵カメラ・写真コレクション（収蔵庫）	収蔵庫内環境の維持					記載のとおりに実施しました。 収蔵庫の除湿器1台について、横浜市の負担において更新工事を行いました。 【課題】 開館16年が経過し、設備の不具合発生や修理部品の欠品が想定されます。日常の保守点検、目視確認を通じてタイムリーに対処できるよう努め、予算の優先順位をつけて対応する判断が必要です。	
			■通年で温度20℃±2℃、湿度50%±2%を維持	実施	実施	-	記載どおりに実施		
			□pH値を定期的に測定し、結果に応じケミカルフィルター交換	年2回	年2回	B	・パッシブインジケータ測定（年2回） ・3/10-15フィルター交換		
			□文化財喰害虫生息調査	年8回	年8回実施	B	・4/16, 6/25, 7/30,9/7,10/19, 11/19, 1/20, 2/17　計8回実施		
			□担当学芸員ほか職員による定期的な清掃庫内の機器、設備の点検を実施	月1回	月1回実施	B	記載どおりに実施		
			■収蔵庫担当による日々の庫内点検実施	実施	実施	-	記載どおりに実施		
			□収蔵庫設備の保守点検	年1回	年1回	B	記載どおりに実施		
			■コレクション作品管理、貸出、熟覧、画像提供	随時	実施	-	・町田市国際版画美術館「映える風景を探して」（4/24-6/27）へ収蔵品23点貸出 ・和歌山県大地町教育委員会へ画像1点貸出		

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅰ文化事業目標		指定管理者提案（要旨）	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
使命6 適切な維持管理を行い、法令を遵守することで、安全で快適な施設を維持する。予防的修繕にも着実に取り組む。	4	維持保全・修繕について	■計画的・予防としての修繕 共有部：センター横浜北および設備管理会社と連携 専有部：今後必要となる修繕項目について検討し、1件60万円を超える事案に関してはモニタリング等を通じて設置者に情報共有・相談	随時検討	実施	-	・随時実施 ・1/28-3/3収蔵庫空調設備更新工事（横浜市による） ・3/28アトリエ陶芸窯更新工事（横浜市による」）	【成果】 記載のとおりに実施しました。 共用部・地下１階駐車精算機について部品生産が終了し、故障時に対応ができなくなった場合、利用者への影響が大きいため、横浜市と相談・協議の上、緊急性の観点からアートフォーラムあざみ野（センター横浜北・ギャラリーの両館）負担での更新を実施しました。 感染症対策の一環として、講座・ワークショップ参加費の支払いにキャッシュレスを導入しました。クレジットカード、電子マネー、交通系マネー、PayPayでの支払が可能です。 文化庁の助成金を受け、自動検温器を1台購入し、受付がスムースになりました。 帰宅困難者一時滞在施設対応訓練に合わせてマニュアルを改訂し、やさしい日本語版の受け入れ票を作成しました。 1階自販機1台を災害用ベンダーに変更し、契約を締結しました。 【課題】 感染症対策に引き続き取り組みます。 若い世代はキャッシュスが浸透しており、キャッシュレス媒体を通じての広報についても検討を進めます。	（評価は前ページに記載）
			■緊急を要する修繕 速やかに横浜市、関係各所へ連絡・報告を行う。運営に支障がないことを最優先に応急処置を取りつつ、最適な修繕を実施	随時	実施	-	共用部・地下1F駐車場精算機について修繕を実施（センター北と費用は折半）		
	5	事故防止・防火防災・保険・感染症対策等	■怪我や急病：来館者の怪我、急病や多目的トイレの緊急呼出等、異常発生の報を受け次第、センター横浜北・ギャラリーあざみ野の職員1名ずつが現場へ急行し対応。救急要請にスムーズに対応できるよう、スタッフの研修実施	随時	実施	-	新採用職員２名が消防署での救急救命研修を受講		
			□AEDの設置および操作研修	年1回	年1回	B	上記によりAED講習を合わせて受講		
			■事故発生時：市を含む関係者に速やかに通報し、必要な対応と原因調査にあたる。	随時	実施	-	地震発生時は速やかに状況を確認し、横浜市と財団に報告		
			■防火防災 センター横浜北、設備管理会社と協働して、アートフォーラム自衛消防隊を組織	実施	実施	-	記載どおりに実施		
			□センター横浜北との合同防災訓練	年2回	年2回実施	B	・10/5、3/15にセンター北・西田装美との合同で実施		
			■保険：センター横浜北と協議の上、適切な施設賠償保険に加入。作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険等については、個別に適正な保険を契約	実施	実施	-	記載どおりに実施		
			■感染症対策 感染や拡大を防ぐため、マニュアルに基づきスタッフへの対応講習を実施	実施	実施	-	記載どおりに実施		
	6	災害時対応ー地域に頼られる公共施設として	□帰宅困難者一時滞在施設対応訓練	年1回	年1回実施	B	・6/21山内地区センターの訓練研修参加 ・帰宅困難者一時滞在設運営マニュアルをやさしいにほんご対応で改訂 ・3/15研修実施、マニュアルによる手順を確認		
			■日常的なネットワークを構築し、地区全体での防災力強化に努める	随時	実施	-	記載どおりに実施		
			■所管の飲料自動販売機に災害用ベンダーを導入し、災害時に活用	随時	実施	-	3/28災害用ベンターへ切り替え、令和4年度から導入		
	7	業務計画・報告および評価	■事業計画書・事業報告書の作成・提出	実施	実施	-	記載どおりに実施		
			■日報・月報の作成、月間業務報告	随時	実施	-	記載どおりに実施		
			■業務評価（自己評価）を実施	実施	実施	-	記載どおりに実施		

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅱ施設運営目標		指定管理者提案（要旨）	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
施設運営及び組織運営	1	専門職員、管理・運営職員ともに適切な人材を配置	■人材配置 館長：1人、副館長：1人、職員：8人、 臨時職員：3～5人	実施	実施	-	記載通りに実施	【成果】 記載のとおりに実施しました。 育児短時間勤務職員を含め、在宅勤務の導入など柔軟な勤務環境の構築に努めました。 一人当たりの月平均超勤時間　5.8時間 シフト・ローテーション勤務の中、迅速かつ手軽な連絡方法としてLINEの使用を認めました。 川崎市文化財団主催「パラアート・ミーティング　学芸員さんに学ぼう～アート作品の展示方法」に当館フェローアートギャラリー担当学芸員が派遣依頼を受け、福祉関係団体の方へレクチャーを行いました。 「教育美術」3月号に、当館主任エデュケーターがアニメーションワークショップに関する寄稿を行いました。 7-8月に筑波大学より博物館実習生1名の受け入れを行いました。 【課題】 職員の専門性やスキルを磨くため、積極的に視察や研修に参加する機会を設けたいと考えています。	【評価できる点】 ・適切な人材の配置、効率的な勤務体制の実行により、安定した施設運営が継続された点を評価します。 【更なる取組を求める点】 特になし。
	2	切かつ効果的な勤務体制を確立	■勤務体制 基本：早番（８:45-17:30）２名 遅番（12:30-21:15もしくは、11:00-19:45）２名 ※全職員によるローテーション制	実施	実施	-	記載通りに実施		
			■繁閑に応じて柔軟なシフトを組み、職員のワークライフバランスに合わせた勤務と効率的な運営を両立させ、良質な利用者サービスを提供します	実施	実施	-	育児短時間勤務者2名について、在宅勤務を含めた柔軟な勤務環境の構築に努めた。 月平均超勤時間5.6時間/人		
	3	切れ目のない責任体制の維持	■館長・副館長不在時の代行者を明確にし、責任体制を維持します。	実施	実施	-	記載通りに実施		
必要人材の配置及び能力担保	1	専門職員、管理・運営職員ともに適切な人材を配置	■館長・事業責任者：当団体や民間で文化事業や施設運営について十分な経験を有し、芸術分野全般への理解があり、マネジメント能力の高いベテラン職員を配置	実施	実施	-	記載通りに実施		
			■副館長・管理運営責任者：連絡・調整をはじめとする施設を管理・運営するための基礎的な業務能力を有し、当団体や民間での文化事業や施設運営の経験を有する職員を配置	実施	実施	-	記載通りに実施		
			■事業系及びコレクション担当：美術に関する専門教育を修め、学芸員の資格を有する職員または鑑賞・造形教育エデュケーター、もしくは両者を志望する職員を配置 ※特にコレクション担当には、写真・映像を専門とする学芸員を配置。	実施	実施	-	11月外部団体に当館フェローアート・ギャラリーの担当学芸員を講師として派遣。 3月教育専門誌に主任エデュケーターがアニメーションワークショップについて寄稿。 ・8月博物館学芸員実習受け入れ　1名		
			■施設運営系担当：当団体が保有する豊富な専門人材の中から、中堅と若手をバランス良く配置。	実施	実施	-	記載通りに実施		
横浜市の重要施策を踏まえた対応	1	適正な個人情報保護・情報公開	■個人情報は規程及びマニュアルに基づき適切に取り扱います。	実施	実施	-	記載通りに実施		
	2	人権尊重	■すべての人に開かれた施設として公平・公正な施設運営のため、人権尊重の取組みを大切にします。	実施	実施	-	・1月横浜市主催人権研修「まんがから考える差別や偏見」受講（2名）、館内で情報共有 ・1月「やさしい日本語講座」受講（1名）		
	3	環境への配慮	■ゴミを適切に分別、排出量を抑制 ゴミの持帰り原則を徹底し、処分引き受けは有料とする	実施	実施	-	・SDGsへの取り組みを意識 ・1月よこはまフードドライブキャンペーンへアートフォーラムあざみ野として参加　27点.3.3キロ		
			■電気とガスの使用量を前年度並みに抑制します。	実施	実施	-	記載通りに実施		
	4	市内中小企業への優先発注	■物品購入、委託 アーティスト指定、市外業者のみの業務を除き市内業者への発注に努める	実施	実施	-	記載通りに実施		

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目			R3年度計画		実施状況			評価	
Ⅲ維持管理目標		**指定管理者提案（要旨）**	**達成指標**	**目標**	**実績**		**説明**	**自己評価**	**行政評価**
事故防止策・緊急時(防犯)の対応、防災に対する取組	1	アートフォーラムでは、全職員（横浜市民ギャラリーあざみ野、センター横浜北、管理委託会社）が、日常的に危険箇所や不審者等を早期に発見し、対処します。	■これまで蓄積してきた各種マニュアルを常に見直し、新たな危機の想定など、必要に応じた更新・改訂をしていきます	随時	随時実施	-	記載どおりに実施	【成果】 記載のとおりに実施しました。 感染症対策をはじめ、両施設での情報共有を積極的に行いました。 【課題】 施設の維持管理に関する課題は前述のとおりですが、災害対応は常日頃からの心構えが重要なため、訓練時以外でも月次ミーティングなどの機会を通じ注意換気していきます。	（評価は前ページに記載）
	2	緊急時には「利用者の安全第一」と「迅速さ」を基本方針として対応します	■安全管理マニュアルを見直し、必要に応じて更新します。	実施	実施	-	記載通りに実施		
			■常に全職員がマニュアルを理解するように定期的確認行動を図り、危機の際には「アートフォーラムあざみ野」全職員が一致して対応します。	実施	実施	-	記載通りに実施		
	3	防災の取組みとして、自館の防災はもちろん近隣の防災拠点としての役割も担います。	□センター横浜北との合同防災訓練　実施回数（再掲）	年2回	年2回実施	B	・10/5, 3/15実施		
			□帰宅困難者一時滞在施設対応訓練　実施回数（再掲）	年1回	年1回実施	B	・6/21訓練参加、3/15実施 ・帰宅困難者一時滞在施設受け入れマニュアル改訂		
Ⅳ収支		**指定管理者提案（要旨）**	**達成指標**	**目標**	**実績**		**説明**	**自己評価**	**行政評価**
1　利用料金設定及び割引、減免の考え方	1	展示室・アトリエともに、現在の利用区分（単位）・料金が定着しているため、従来の設定を踏襲します。	■従来の料金体系に沿った利用料設定を継続	実施	実施	-	記載どおりに実施	【成果】 記載のとおりに実施しました。	【評価できる点】 ・自主事業の企画にあたっては、内容を充実させるため、各種助成金の獲得に努めた点を評価します。 【更なる取組を求める点】 ・今後も質の高い自主事業を展開を持続するために、収支バランスにも配慮した企画立案を行ってください。
	2	割引、減免制度については、横浜市民ギャラリー条例・同施行規則に従って運用します。	■横浜市主催事業：50%減免	実施	実施	-			
			■横浜市共催もしくは実行委員会に参加する事業：30%減免	実施	実施	-			
			■ギャラリーあざみ野共催及び協力事業：主催者との協議により30～100%減免	実施	実施	-			
			■アトリエ利用における、夜間割引や学生割引の導入	実施	実施	-			
2　指定管理料にのみ依存しない収入構造	1	自主事業の一部については、指定管理料を充当せずに行います。	■収支ゼロ若しくは黒字で行う自主事業 クロッキーを中心とした市民プログラム講座	年間50万円以上	収支プラスで執行	-		【成果】 記載のとおりに実施しました。 市民のアトリエ事業に関しては、収支バランスがプラスになるよう企画・執行しました。 事業に対する助成金は4件申請し3件が採択されました。また施設のコロナ対応に関する助成金は2件採択されました。 【課題】 令和4年度の「よこはま縁むすび講中」の活動に対する助成金の状況が不透明ではありますが、ここまで連携を進めてきた事業や関係性を継続できるよう調整に努めます。	
	2	利用料金収入を安定的に確保します	■利用料金収入（施設・駐車場）	（金額設定なし）	10,163,160円	-	施設利用料金6, 664, 610円 駐車場利用料・自動販売機手数料3, 498, 550円		
	3	助成金・協賛金、現物協賛の獲得	□助成金　申請件数	3件以上	5件	A	展覧会（次年度開催を含む）に対して助成金3件、感染症対策に対して助成金2件　計5件獲得		
			□助成金・協賛金・広告料とあわせて外部資金を獲得	50万円以上	3,831,000円	A	助成金5件、寄付金1件、アートあざみ野広告料2社		
3　経費削減等効率的運営の努力	4	経費削減・効率的運営の努力	■センター横浜北と協力し、施設管理委託費を抑制	前年度並み	前年度並み	-			
V PDCAサイクルの確実な運用		**指定管理者提案（要旨）**	**達成指標**	**目標**	**実績**		**説明**	**自己評価**	**行政評価**
	1	PDCAサイクルの基本指標となる日報、月報の作成・管理を確実に行います	■業務日報の作成（再掲）	実施 （毎日）	実施 （毎日）	-	記載のとおりに実施	【成果】 記載のとおりに実施しました。	【評価できる点】 ・適切に実施されています。 【更なる取組を求める点】 特になし。
			□管理運営月報・完了確認書を作成し、モニタリングにおいて報告（再掲）	月1回	月1回	B			
	2	事業計画書・事業報告書の作成・管理を行います	■事業計画書・事業報告書の作成（再掲）	実施	実施	-			
			■事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施	実施	-			
	3	業務評価を実施します	■自己評価（仮決算含む）	実施 （年2回）	実施 （年2回）	-			
その他		**指定管理者提案（要旨）**	**達成指標**	**目標**	**実績**		**説明**	**自己評価**	**行政評価**
	1	市民の生命と安全を守ることを第一義として、適切な保険に加入し、万一に備えます。	■設賠償保険はセンター横浜北が契約し費用については応分負担	実施	実施	-	記載のとおりに実施	【成果】 記載の通りに実施しました。	【評価できる点】 ・適切に実施されています。 【更なる取組を求める点】 特になし。
			■作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険契約については、個別に契約し、賠償請求について対応	実施	実施	-	記載のとおりに実施		
	2	関係法令を順守し、公的機関としての役割を果たします。	■現行の関係法令を順守するとともに、法令改正に気を配り、契約等の前に確認	実施	実施	-	記載のとおりに実施		
	3	よりよい市民サービスの提供を目指し、市及び関係機関との連絡調整を行います	■事故や不具合時は即日報告とし、随時事務局・横浜市と共有	実施	実施	-	記載のとおりに実施		

令和3年度　横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

※実績のチェック欄（数値目標のみ記載）について：目標に対し＋10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し－10%を下回る実績→「C」

評価項目				実施状況			評価	
総括		特記（提案事項要旨）	達成指標	説明			自己評価	行政評価
	1						上半期はまん延防止等重点措置、緊急事態宣言が発出され、施設貸出や事業の執行方向に大きな影響がありつつも、コロナウイルス感染症対策に最大限に留意しながら、3つの企画展をはじめとする事業を予定どおり実施した。 令和3年度は、使命3「文化芸術の力を活かし、地域の課題と向き合う」という大きな使命に対し、「やさしい街あざみ野実行委員会」との関わり、対話型鑑賞会導入に向けての取組、外国人親子向けフリーゾーンの試行など、具体的なテーマを見出してアプローチを始めることができた。また、使命4「地域の団体や施設とつながり合い、その協働から活力を生み出す」という使命に対しては、『よこはま縁むすび講中実行委員会』の枠組みで活動したほか、青葉区民文化センターフィリアホール、みどりアートパークといった文化施設や近隣の山内図書館、外国人ファミリー支援団体等とつながりを築くことができた。 当館が開館以来培ってきた子ども向け事業や身近にアートを感じてもらえるような事業や、また当館所蔵品であるカメラ写真コレクションを軸にした取り組みをもとに、地域に根差したギャラリーとして一歩をすすめた年となった。また施設の周知にも注力しSNSやYouTubeでの発信、ウェブサイト改修などにも着手したことも成果と考えている。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染症対策を講じながらの運営となりました。講座やロビーコンサート等の事業について、状況に応じ開催方法に配慮したうえで実施しました。また、3回の企画展についても実展示やイベント等の事業を実施しました。状況をふまえ、幅広い層の方に文化に触れる機会を提供した点を評価します。 昨年に引き続き、SNSを活用した広報やYouTubeでのアーティスト紹介を掲載するなどウェブ上での情報公開を積極的に行いました。本年度はInstagramを新しく開設しました。特性を活かし、自主事業を中心とした事業にかかる写真や動画の投稿を行い、効果的な周知を行いました。 また、地域団体や他施設との連携を継続するとともに、本年度から「やさしい街あざみ野実行委員会」や、「よこはま縁むすび講中実行委員会」へ参加することにより、地域連携及び他施設との連携を広げました。この連携により、対話型鑑賞会導入に向けた取組や外国にルーツを持つ親子を対象としたワークショップを試行するなど、幅広い属性の方に向けた事業に着手しました。施設の特性を活かし、第4期の使命である「地域が抱える課題」に対する取組や、「地域コミュニティのベースとなる文化的コモンズの形成への貢献」となる取組を着実に進めています。 次年度も、新型コロナウイルス感染症に係る影響により、対策を講じながらの運営となることが想定されますが、引き続き施設の使命に資する取組を深化させることを期待します。